

☆巻頭言（年頭の挨拶）☆

2012年明けましておめでとうございます。新年のお慶びを申し上げますとともに年頭のご挨拶を申し上げます。

この度、谷川原前理事長の後任と致しまして、日本TDM学会の理事長を引き受けさせて頂くこととなりました。小生は薬剤師として医療現場に28年間在籍し、薬科大学に移りまして現在で8年目になります。この間のTDMの発展は本当に医療に大きく貢献しているのではないかと考えております。TDMの発展はひとえに日本TDM学会会員の皆様による日頃よりのTDMの実践・研究ならびに普及・啓蒙活動の成果ではないかと感謝申し上げます。

日本TDM学会は「個別化投薬の方法論」の研究ならびに普及・啓蒙を任務としておりまして、それには薬物血中濃度だけでなく種々の方法が用いられています。またその成果の評価におきましても多くの方法があります。そして個別化投薬の成果として医薬品適正使用という課題に対して、社会から大きな期待をされているところでもあると考えています。その意味におきましても本学会の社会的責任は大きいと考えております。

本学会の大きな柱の一つに学術大会開催があります。2011年度は木平健治大会長により広島におきまして第28回学術大会が開催されました。「チーム医療を支えるTDM」というメインテーマで1000名を超える参加者が集まり非常に活気のある、また実り高い学術大会となりました。これはシンポジウム、セミナーをはじめ教育関連セミナーなど充実したプログラムの成果と考えています。2012年度第29回学術大会は武末芳生大会長の下、神戸で「TDMの標準化」というメインテーマで開催されます。例年同様に、最新のTDMサイエンスだけでなく、教育プログラムも充実しております。また新たなTDMの展開も予定されております。是非奮ってご参加くださることを期待しております。

本学会の新たな施策としまして、日本TDM学会「TDMガイドライン策定委員会」が発足し、第28回学術大会でその中間報告を行いました。この考え方はTDMの標準化を進めることで、これまで個々の施設内で独自に、あるいは名人芸的に実施されていたTDMをより広く、よりエビデンスに基づくTDMを推し進めたいと考えております。これは新たなTDMの展開を考えた施策であります。

また本学会だけでなく関連する学会と連携してガイドラインを作成しなければなりません。チーム医療ということが広く言われていますが、まさにTDMがチーム医療の一環として展開され、医薬品適正使用に貢献するための非常に大きな方法論であります。そのためにも標準化が重要となり、第29回学術大会ではその大きな第一歩を踏み出すこととなります。その意味におきましても医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師など多職種より多くご参加いただけることを祈っております。

2012年度は6年生課程の薬学生が薬剤師として第一歩を踏み出すとともに、6年生薬学教育が評価されることにもなります。薬剤師の最も大きな武器の一つはTDMと考えています。その意味においても、薬剤師卒業後教育にTDMが不可欠であると同時に薬学教育中でのTDMの教育も非常に重要となります。学会としてその教育の場を提供するとともに、研究成果の発表の場として活用していただけるように学会活動を推し進めていきたいと考えています。学術大会、TDMセミナー、TDM研究誌などの充実を通じてTDMの発展に貢献しなければならないと考えています。

以上、年頭にあたりましてご挨拶を述べさせていただきましたが、TDMの発展と医療への貢献を考え、日本TDM学会の活性化を目指し、会員の皆様にとってより有用となる学会運営を心がけていく所存であります。ご支援ご鞭撻をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。また会員の皆様の一層のご活躍とご健勝を祈念いたします。

2012年1月吉日

日本TDM学会理事長
上野 和行